

# バイオ戦略の全体目標の評価に関する 基本的考え方(案)

---



令和4年4月

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

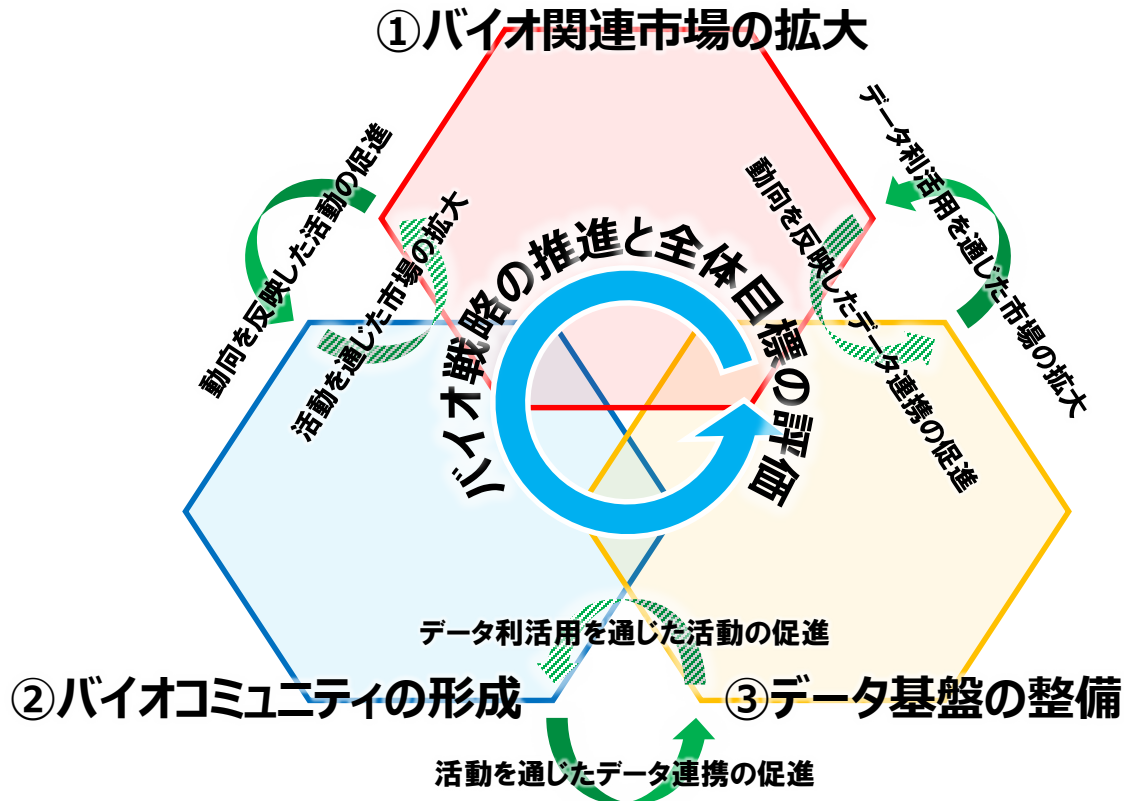
<b>I. 評価目的・体系</b>	… 2
– 全体目標の評価の狙い	
– 定量面の評価と定性面の評価の役割分担	
– 全体目標の評価体系	
<b>II. 評価スケジュール</b>	… 6
– 2030年に向けた全体目標の評価の見通し	
– 全体目標の評価スケジュール（想定）	
<b>III. 指標・評価方法</b>	… 9
– 具体的な評価方法	
– バイオ戦略のロジックチャート	
– 指標に関する情報の把握体制・方法・頻度	
– 【参考】 関連指標の例	
– バイオエコノミーの成熟に関するレベルと基準	
<b>IV. 参考資料</b>	… 16



# 評価目的・体系

# 全体目標の評価の狙い

- ◆ 「2030年に世界最先端のバイオエコミー社会を実現」という全体目標の達成に向け、バイオ戦略の核となる①バイオ関連市場の拡大、②バイオコミュニティの形成、③データ基盤の整備を相互に連携させ、効果的・効率的に推進するため、進捗状況のモニタリングを含め、バイオ戦略全体を俯瞰した評価を実施
- ◆ 全体目標の評価においては、我が国の強みに基づき、国内外から人材・投資を呼び込むための国際的なベンチマークとして指標を活用することで、我が国のバイオ分野が世界最先端の水準にあることの対外的な発信に資するよう留意し、これを契機として関係者が一丸となってバイオエコミー拡大に取り組む機運の醸成を図る
- ◆ このような観点から、全体目標の評価スケジュールを策定するとともに、評価に用いる指標やその把握体制・方法・頻度を含む具体的な評価方法について、有識者会議で決定
- ◆ バイオ戦略を巡る情勢変化等に迅速に対応していくため、今後はタスクフォースにおいて、これらの柔軟な見直しを可能とする



# 定量面の評価と定性面の評価の役割分担

- ◆ 全体目標の評価は、有識者会議において、**定量面と定性面の両面**から実施することを想定
- ◆ これらの役割分野については、**全体目標からのバックキャスト**により評価・モニタリングの対象とすべき情報を精査の上、当該情報の**定量的な把握の適否**に応じて検討

## 【定量面の評価(定量的な把握に適した情報が対象)の役割】

- ◆ バイオ戦略においては、バイオエコミーへの世界的な潮流を捉え、バイオ関連市場の中でも、我が国の強みを生かしつつ、大きな成長が見込める分野について、**市場領域ごとに2030年時点の市場規模目標**を設定
- ◆ これは、「持続的な経済成長」と「社会的課題の解決」の両立に資するバイオエコミーにとって、**経済的価値**はもとより**環境的・社会的価値**も重要であるところ、バイオエコミーの推進の鍵となるバイオ関連市場の拡大には、これらの価値が直接的又は間接的に包含されることから、まずは市場規模を把握すべき指標に据えたもの
- ◆ そこで、定量面では、「**市場領域の拡大**」を中心に、バイオ戦略の進捗状況を評価することを目的とする

## 【定性面の評価(定量的な把握に適さない情報が対象)の役割】

- ◆ バイオ戦略においては、単にバイオエコミーを志向するだけでなく、それが「**世界最先端**」の水準となることを求めている
- ◆ あわせて、バイオエコミーを「**バイオフィースト発想**」、「**バイオコミュニティ形成**」、「**バイオデータ駆動**」の三つの要素に分解しており、これらがそれぞれどのようなレベルで実現しているかを把握することが必要
- ◆ そこで、定性面では、「**バイオエコミーの成熟**」を中心に、バイオ戦略の進捗状況を評価することを目的とする

# 全体目標の評価体系

- 「2030年に世界最先端のバイオエコノミー社会を実現」という全体目標を定量面・定性面から評価
- 評価では、個々の取組を改善するよりも、**バイオ戦略全体を俯瞰し、核となる取組の相互連携及び効果的・効率的な推進を図りつつ、我が国のバイオ分野における強みを対外的に発信することに主眼を置く**

## 全体目標

「2030年に世界最先端のバイオエコノミー社会を実現」

「市場領域の拡大」を中心に評価

「バイオエコノミーの成熟」を中心に評価

### 定量面の評価

#### KGI（重要目標達成指標）

2030年の我が国全体のバイオエコノミー市場規模目標

設定済み

総額92兆円

#### KPI（重要業績評価指標）

2030年の各市場領域の市場規模目標（9つの市場領域）

設定済み

#### モニタリング指標

指標の性質に合わせ、市場領域横断的又は市場領域ごとに取りまとめ。バイオ戦略の進捗状況を踏まえ、必要な指標のKPI化を検討

バイオ分野の投資額

国際連携（例：主要展示会の海外参加企業数）

バイオコミュニティの取組状況

### 定性面の評価

#### 定性的指標

以下の要素ごとにレベルと基準を設定し評価

バイオファースト発想

バイオコミュニティ形成

バイオデータ駆動

バイオ分野の雇用者数

企業のバイオ戦略認知度（例：バイオコミュニティの参画企業数）

市場領域ロードマップの推進状況

等

各指標については、国内外における情勢変化や市場領域ロードマップのステージゲート移行等の適切なタイミングで見直しの可否を検討



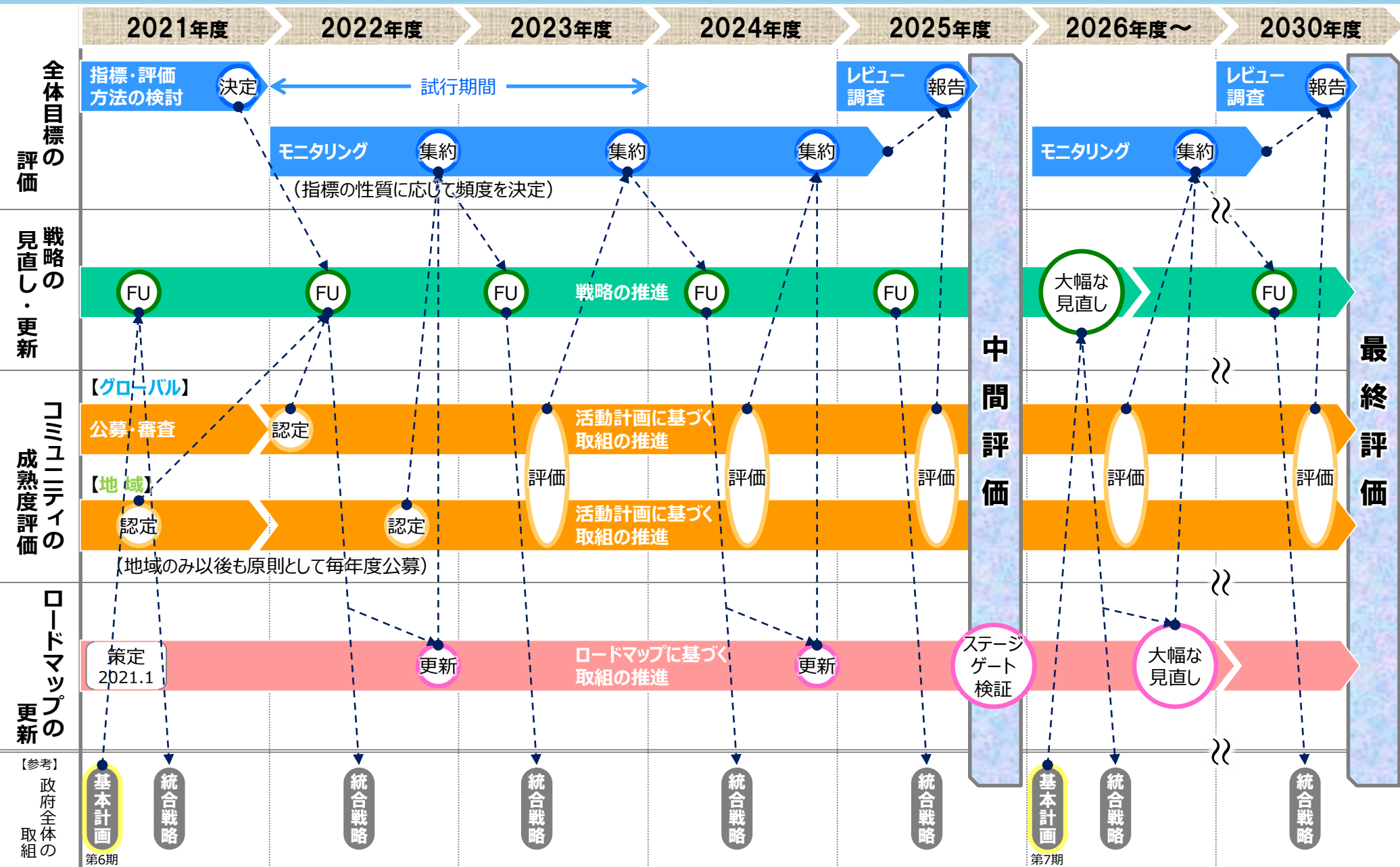
# 評価スケジュール

# 2030年に向けた全体目標の評価の見通し

- ◆ 定量面・定性面からの全体目標の評価については、有識者会議において、**2025年度末に中間評価**(市場領域ロードマップのステージを適切に移行できたかの検証を含む)、**2030年度末に最終評価**を実施
- ◆ その準備として、**2025年度及び2030年度**に、内閣府科技において、関係府省庁や業界団体等の協力を得つつ、中間評価及び最終評価に向けて必要な情報を収集・分析するための**レビュー調査**を実施。関係府省庁においても、各市場領域の市場規模の把握をはじめ、個別に必要な調査を実施
- ◆ **各レビュー調査の前年度までは**、バイオコミュニティの成熟度評価や市場領域ロードマップの更新等の成果も活用しながら、内閣府及び市場領域ロードマップ取りまとめ省庁を中心に、**指標のモニタリング**を継続(モニタリングの頻度については、指標ごとに、調査等の頻度が異なることから、その性質に応じて決定)
- ◆ モニタリングを通じて集約した情報は、翌年度の**バイオ戦略の見直し・更新**に向けたフォローアップに反映
- ◆ **バイオコミュニティの成熟度評価**については、2022年4月頃にグローバルバイオコミュニティの認定を目指していることに鑑み、2023年度から開始し、**原則として毎年度実施**
- ◆ **市場領域ロードマップの更新**については、昨今のバイオ分野を取り巻く情勢変化の速さに鑑み、**例えば2年ごと**に、当該年度のバイオ戦略の見直し・更新に向けたフォローアップとの整合性を確保する観点から実施。更新の際には、市場規模目標やその時点での市場規模についても可能な範囲で検証
- ◆ **2022年度から2023年度**にかけては、バイオ戦略の見直し・更新に向けたフォローアップ、バイオコミュニティの成熟度評価及びロードマップの更新といった一連のプロセスが初めて実行可能になると見込まれることから、これを、2021年度に決定する指標・評価方法の実行可能性を確認するための**試行期間**と位置付け
- ◆ 試行結果から改善点を抽出し、今後の**プロセス間の連携強化**に生かすとともに、**評価スケジュールの見直し**の可否を検討
- ◆ なお、評価スケジュールについては、全体目標の達成に向けて常に最適な方策を講ずる観点から、試行期間にかかわらず、バイオ戦略の**進捗状況に応じて柔軟に見直す**



# 全体目標の評価スケジュール(想定)



全体目標の達成に向けて常に最適な方策を講ずる観点から、バイオ戦略の進捗状況に応じて柔軟に見直す